

今村明恒 いむら てるひこ 地震學、理學博士。明治二年六月十四日薩摩國生れ、
 昭和十二年一月一日歿（二七〇—一九六）。幼名常次郎。號吟風、鹿島
 洋々。明治二十七年帝國大學理科大學物理學科卒。二十九年陸地測量
 部數學教授、陸軍教授。三十八年刊行の『地震學』は日本人による地
 震學書の嚆矢。大正十一年陸軍省の命で海外出張。翌年の關東大震災
 には政府との聯絡、新聞記者發表、各界への應答等調査活動の中心人
 物として活躍、一はやはり「今村明恒博士」の記事が新聞に載つた。
 東京帝大理學部は地震學科が新設せられ主任教授となる。十五年地震
 研究所員、翌年赤坂離宮で御前講演。昭和四年地震學會初代會長、機
 關誌『地震』編輯主任。

著書に『地震の理論と今後』今回及び後の東京地震（大正十二年一月十八日岩
 波書店）『科學普及叢書』（『地震講話』（大正十二年四月八日岩波
 書店）、『地震と震災—その原因と豫防』（加藤武夫・國富信一共著、
 昭和六年一月十日朝日新聞社）『朝日民衆講座』（『鯨のぞりごと』
 （昭和十六年十月十日三省堂）、『蘭學の祖今村英生』朝日新聞社）『朝
 日新選書』（等。山下文男著『地震予知今村明恒の生涯』（平成元年
 九月一日青磁社）がある。

